

盛岡発

雇用創出「新商品」発表



盛岡地域と沿岸被災地の事業者が手を取り、被災地の雇用を創出しようと、新たな地場産品を開発しました。発表会では、釜石で栽培された麻

の原料のカラムシの葉と三陸産の昆布やワカメを原料とした「お茶漬けの素」や大槌町産の食材を使った無添加の「粉末だし」、八幡平市の地熱染めの生地を使用した「バッグ」の3商品が紹介されました。新商品のうち「お茶漬けの素」と「粉末だし」は盛岡市の手づくり村などで販売される予定です。

(5/20 ニュースエコー)

野田発

5年ぶりの田植え

野田村では、地域農業の再生を目指して村内の農家6人が立ち上げた農事組合法人「宇部川ファーム」による米づくりが本格的に始まり



ました。田植えが行われた水田は津波で浸水しましたが、国と県の補助を受けて農地として再生し、5年ぶりで田植えが行われました。この春は20ヘクタールの水田で作付を行い、最終的に80ヘクタールを目標にしています。(5/20 ニュースエコー)

山田発

「どんぐり交流」植樹会

全国の子供たちに育てられたどんぐりがふるさとの山田町に帰り、町内5つの保育園の園児たちが植樹しました。「どんぐり交流」植樹会は東京のNPOが企画したもので、植えられた130本のコナラの木は、被災地で拾ったどんぐりを北海道から沖縄までの全国の子供たちが苗木として育てたものです。子供たちは苗を労わるように植えていました。コナラの木は山田町の復興のシンボルとして中心商店街の街路樹などに活用される予定です。(5/22 ニュースエコー)



陸前高田発

「五本松」ありがとう会

土地のかさ上げ工事が進む陸前高田市で、住民に親しまれてきた憩いの場「五本松」が埋め立てで立ち入りが禁止となるため、別れを



惜しむ交流会が開かれました。「五本松」は巨大な石と4つの石碑を5本の松が囲むように整備されていましたが、震災津波で松が流失し、石碑は倒壊しました。地域の住民にとっては石の上で遊ぶなどした思い出の場で、集まったおよそ40人は残された巨大な石の前で思い出話をしたりしながら懐かしんでいました。(5/24 ニュース)

宮古発

たろう大漁まつり



宮古市田老地区では恒例の大漁まつりが行われ、浜の復興をアピールする様々なイベントで賑わいました。地元神社の例大祭を起源に

40年前から続く田老地区の大漁まつりは、震災の年は中止としましたが、翌年から再開しました。まつりのハイライトは震災後初めて行われる漁船のパレードで、合わせて9隻の船には大漁旗が飾られ、神社の神輿や太鼓を乗せて田老の海を回りました。参加者たちは、震災前の姿を取り戻しつつある「まつり」を楽しみながら、改めて復興への思いを新たにしていました。(5/24 ニュース)

大槌発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週は、大槌町商工観光課観光物産班の佐々木さんが、6月7日(日)に開催する「新山(しんやま)つつじ再生祭」について伝えてくれました。大槌町の「町の花」となっている新山つつじですが、手入れが追い付かず、新山高原全体が荒れてきていることから、新たな『新山高原まつり』が出来るよう「一緒に再生復活の活動をしましょう」というイベントとのことです。

(5/13)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122